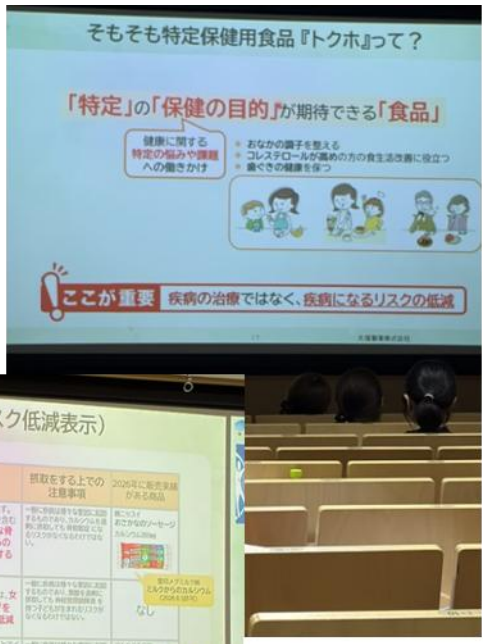
家政学部「家政学概論」～大塚製薬株式会社講演会
経口補水液（病者用食品）と特定保健用食品の活用

健康食品業界の健全な発展を目的に、様々な活動を行っている（公益財団法人）日本健康・栄養食品協会の活度の一環とて、協会の特定保健用食品（トクホ）部はトクホの普及啓発活動を活動の一つとして行っています。本学では家政学部１年生向けの講義として、トクホ部のご協力のもと2026年７月９日と 16 日の２週にわたりに大塚製薬株式会社 ニュートラシューティカルズ事業グループナレッジマネジメント部　葛西雅美様より、特別用途食品と特定保健用食品についての講演を行っていただきました。

7/９の第１回では、「熱中症対策／経口補水液について」と題して、特別用途食品の中でも病者用食品とされる経口補水液について、その制度上の位置づけから実際の飲料の中身を株式会社大塚製薬工場の「OS-1」を例にとって、講演いただきました。講演の中では経口補水液の用途である熱中症についても、具体的な症状や対処の仕方などを説明いただきました。朝起きて「OS-1」を飲んだ時に美味しく感じたら脱水の可能性のサインであるとか、熱中症と思われる方（高齢者は除く）にペットボトル飲料を飲ませる場合は、予め封を切らずに渡して本人の力で開封できるかで、体力消耗の度合を確認するといった具体的で興味あるお話しを盛り込んだ講義でした。ちょうど前日の 7/8 に北九州地方も梅雨が明け、猛暑到来の時期でもあり、学生は熱心にメモを取りながら、講師の話を拝聴していました。

7/16 の第２回の講義は、「保健機能食品制度について」として、食品のなかでの保健機能食品やトクホのポジショニングやトクホの審査の仕組みを、自社トクホ製品の「ファイブミニ（おなかの調子を整える食品）」や「賢者の食卓（血糖値・血中中性脂肪が気になる方の食品）」を例にとりながら説明いただきました。トクホといえどもあくまで食品であるので、医薬品とは区別され、具体的な病気の名前（例えば、便秘や下痢、糖尿病）は表示できません。例外としてトクホの中でも疾病リスクの低減効果を表示できる区分があり、カルシウムで骨粗鬆症のリスクを、葉酸で胎児の神経管閉塞障害のリスク低減を表示できると解説されました。



特に女性においては、カルシウムは若いうちから摂取しないと足腰が弱ってからでは意味がないといったことや、葉酸は妊娠の可能性のある女性は早めの摂取で有効性を発揮するといった、女子学生の強い関心を引く内容もあり、皆熱心に聴講していました。

講演後のアンケートでは、トクホについては知ってはいたが内容までは知らなったが、今回の講演でトクホのことを深く理解することができた、との感想が多数ありました。

いわゆる健康食品が街にあふれる中、家政学部の学生として、病者用食品や特定保健用食品といった国による安全性と効果に関する審査をパスした食品を選ぶことが、健康維持に重要であることを認識することができた講義でした。